

# ふるさとわがまちづくり

## 伊保町自治区

### ◆「伊保町」の由来

愛知環状鉄道の高架が、東西に白い帯のように延びているのが、ひときわ目立つ伊保町自治区。工場が、病院が、高校が、そして数多くの店舗が進出し、この町にも都市化の波が押し寄せています。近い将来、市道四郷～貝津線も完成すると町の景観が大きく変貌します。

かつては下伊保と呼ばれ、戦前はわずか60戸だった戸数も今では184戸と3倍増となっています。また、昭和45年に隣りの貝津町に中京大学が開校してからは、立地条件の良さを生かし区内の10数軒ほどが学生相手のアパート経営を始め若者の街として活気を呈しております。

人口の増加に伴って、悩みの種は「自治区内のコミュニケーションをいかに図るか」です。

一方、伊保町で最も自慢できるのが保見地区の「わくわく事業」の認定を受けて活動しているひまわり会(加藤芳市会長)です。まち北部に位置する蓮池周辺中心に桜をはじめ、紫陽花、紅葉の植樹と、散策道を設け、今では伊保町の名所



として区民の憩いの場となり、毎年4月には、みたらし団子、ジュースの無料配布を行い、区民皆さんの人気スポットとなっています。

伊保町のもう一つの自慢は棒の手保存会(杉浦兼雄会長)の皆さんによる棒の手が披露され多くの老若男女のふれあいの場として、素晴らしいコミュニケーションが図られています。



学園地帯、工業地帯、田園地帯の3つが実に味わいのあるハーモニーを醸し出している素晴らしい伊保町は訪れる人をきっと感動させることでしょう。



猿投山の麓に位置する伊保町、左後方は中京大学、中央はトヨタ紡織(株)右に愛環鉄道が走る。

### ◆「いぼ塚」の由来

昔、偉いお坊さんが、現在の幡豆郡方面に向かう途中、伊保の村に立ち寄った折に、体にイボのできた人に会いご祈禱をしたところ見事にイボが消えたという伝説がその由来です。

いぼ塚は、昭和59年7月、当時の有志によって石碑が建立されました。



### 伊保町自治区データ (H21.4現在)

設立：昭和42年  
世帯数：184世帯 (平成21年)  
          : 230世帯 (昭和54年)  
組数：13組  
面積：2.086K㎡  
自治区たより：  
回覧：月2回  
ちびっ子広場：2箇所  
ふれあい広場：1箇所  
防犯灯設置箇所：95箇所  
小学校：伊保小学校区  
自治区会館：伊保町児童館